

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

芥川高校がめざす学校像は『豊かな人間力とグローバルな視点で、自ら考え行動し、主体的に進路を切り拓く力を持った生徒を育てる学校』。

- 1 「自ら考え行動し、主体的に進路を切り拓く力」を持った生徒の育成
- 2 「グローバルな視点で考える力」を持った生徒の育成
- 3 「豊かな人間力」を持った生徒の育成

2 中期的目標

1. 自ら考え行動し、主体的に進路を切り拓く力を持った生徒の育成

(1) 学力の向上（授業力向上、学習環境整備等）

- ア：生徒にとってより「魅力的な授業」「わかる授業」となるように、教職員が切磋琢磨する環境づくりと組織的な取組みを推進する。
イ：生徒の理解が深まるように ICT 等の環境を整備し、それらを活用した授業力向上を図る研究と運用を推進する。
ウ：生徒に自学自習力が身に付くように課題等を工夫する。

*授業アンケートの授業満足度は、今後も満足度 80%以上を維持する。(H29：74.3% H30：75.5% R1：82.0%)

(2) 希望進路の実現

- ア：望ましい勤労観・職業観を持ち、主体的に進路を選択できる力を育むキャリア教育を推進する。
イ：「学力生活実態調査」を活用し、一人ひとりの希望進路に応じたきめ細かい進路指導を行う。
ウ：新しい大学入試制度に対応した、主体性を持って多様な人と協働して学ぶ姿勢を身に付けさせるとともに、活動記録を適切に残す。
*生徒向け学校教育自己診断における進路指導への満足度 90%以上をめざす。(H29：87.9% H30：88.6% R1：89.2%)
*一人ひとりの希望進路に応じた丁寧な指導を行い、進路希望の多様化にも対応し、希望進路達成率 80%以上を維持する。
(H29：78.8% H30：80.0% R1：81.8%)

2. グローバルな視点で考える力を持った生徒の育成

(1) 使える英語力の育成

- ア：高大連携等による「グローバル専門コース」の充実と、英語4技能の育成を図る。
イ：生徒の英語に関する資格への関心を高め、実用英語技能検定等の資格取得や英語学力調査で得点率向上をめざす生徒を増やす。
*実用英語検定資格取得者を、令和4年度までには80人以上とすることをめざす。(H29：52人 H30：74人 R1：60人)

(2) 国際感覚の育成

- ア：交流生の派遣や受け入れ等国際交流を促進する。
イ：海外修学旅行等の推進により異文化と触れる機会を確保する。
*生徒向け学校教育自己診断における異文化理解教育に対する肯定率 80%以上を維持する。(H29：71.0% H30：83.0% R1：84.6%)

3. 豊かな人間力を持った生徒の育成

(1) 体験学習の充実

- ア：保育園実習や老人ホーム実習をより充実させる。
イ：地域と連携した体験活動の充実を図る。
*生徒向け学校教育自己診断における地域との関わりに対する肯定率 80%以上を維持する。(H29：73.0% H30：75.0% R1：81.8%)

(2) 学校行事、部活動の振興

- ア：学校行事の地域等への公開を促進させる。
イ：部活動の活性化と効率的な運用により学習との両立を図る。
*部活動加入率を毎年引き上げ、令和4年度には80%とする。(H29：75.0% H30：76.0% R1：77.0%)

(3) 規範意識の醸成

- ア：全体指導から学年・学級指導、個別指導につながる段階的な指導を徹底し、生徒が主体的にルールやマナーを守ることができるようにする。
イ：生徒指導のみならず安全教育等あらゆる機会をとらえて規範意識の向上を図る。挨拶がしっかりとでき、時間を守れる生徒を育成する。
*生徒向け学校教育自己診断における規範意識に関する設問の肯定率 90%以上を維持する。(H29：91.0% H30：92.0% R1：93.1%)

(4) 人権意識の向上

- ア：すべての学校教育活動を通じて一人ひとりを大切にする人権教育を推進する。
*生徒向け学校教育自己診断における人権教育に対する肯定率 80%以上を維持していく。(H25：77.0% H30：83.0% R1：84.4%)

4. 信頼される学校づくり（教員力と情報発信力の向上）

(1) 次世代を支える教員の育成とチームとしての教員力の向上

(2) 開かれた学校をめざした、学校情報の積極的な発信

(3) 中学生やその保護者に対する、芥川高校の魅力発信

- *生徒向け学校教育自己診断における教員の協働体制に関する肯定率を、令和4年度には85%とする。(H29：79.0% H30：82.0% R1：82.8%)
*保護者向け学校教育自己診断における情報発信に対する肯定率を、令和4年度には90%とする。(H29：83.0% H30：84.0% R1：82.7%)
*学校説明会・オープンスクールへの中学生および保護者の参加人数を令和4年度には1200人超をめざす。(R1：894人)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. 自ら考え行動し、主体的に進路を切り拓く力を持った生徒の育成	1) 学力の向上 ア より「魅力的な授業」「わかる授業」を創造する。 イ 教員の授業力を向上させる。 ウ 自学自習力をつける。	ア・「授業改善に向けた共通取組項目」(「あくたベース」)を示し、目標やポイントをわかりやすく示し、最後に振り返りを行う授業、生徒が主体的に取り組む授業作りを推進する。 ・生徒による授業アンケートの活用を活用した授業改善に取り組む。 イ・教員相互の授業見学を推奨するとともに授業マイスターの指名等、教職員が切磋琢磨できる環境をつくる。 ・ICT機器の整備を拡充し、それらを活用した授業づくりを推進する。 ウ・自学自習力をつけさせるよう、各教科で課題等を工夫する。 ・個別面談、学習到達度教材等を活用して、生徒の家庭学習時間増加のために、部活動との両立、生活時間の自己管理の習慣をつけさせるような啓発指導を行う。	ア・生徒向け学校教育自己診断結果における教科指導への肯定率 70%以上。 (令和元年度 72.4%) イ・授業アンケートにおける授業満足度(興味・関心・知識・技能に関する生徒の意識に関する項目) 80%以上。 (令和元年度 82.0%) ウ・授業アンケートにおける授業の事前事後に必要な学習の実施率 80%以上。 (令和元年度第2回 79.8%)	
	2) 希望進路の実現 ア 望ましい勤労観・職業観を持ち、主体的に進路選択できる力を育むキャリア教育を推進する。 イ 個々の希望進路に応じたきめ細かい進路指導を充実させる。	ア・「憧れる存在をみつけよう」をコンセプトとし社会に貢献する自分像を明確にイメージすることを目的として、直近の卒業生による進路講話や職業別ガイダンス等を実施する。 イ・個別懇談等で、一人一人きめ細かい進路指導を実施する。また、活動記録を適切に残し活用する。 ・大学入試結果を分析し、大学別進学ガイダンスの内容をより実効性の高いものにする。 ・PTA学年懇談会等の機会を活用して進路講話等を実施し、保護者にも早い段階で生徒の希望進路実現に向けた意識を高めていただき、希望進路の実現を図る。 ・「3年間の高校生活での学び」の一覧表などで学校行事や進路指導等で生徒に身に付けさせたい力をわかりやすく提示する。	ア・生徒向け学校教育自己診断結果における進路指導(進路や生き方について考える機会の提供)への満足度 90%以上。 (令和元年度 89.2%) イ・生徒向け学校教育自己診断結果における進路情報提供への満足度 85%以上。 (令和元年度 87.5%) ・保護者向け学校教育自己診断結果における進路情報提供への満足度 80%以上。 (令和元年度 79.1%) ・希望進路達成率 80%以上 (令和元年度 81.8%)	
2. グローバルな視点で考える力を持った生徒の育成	1) 使える英語力の育成 ア 高大連携等により、「グローバル専門コース」を充実させ、実用性の高い英語力を育成する。 イ 生徒の英語に関する資格への関心を高め、英語検定等の資格取得を推進する。	ア・グローバル専門コースにおいて、高大連携による特別授業や留学生や大学生との交流などの充実を図るとともに、学習成果の発表の機会を設ける。 イ・授業等を通じ、英語検定等の資格取得を奨励するとともに、グローバル専門コース選択生徒全員に英語学力調査の受験機会を与え、英語4技能を育成する。 ・グローバル専門コースの取組みをコース以外の生徒に広げていく。	ア・授業アンケートにおけるグローバル専門コース選択科目の授業満足度 85%以上。 (令和元年度 91.2%) イ・英語検定等の資格取得者数 75人以上。 (令和元年度 60人)	
	2) 国際感覚の育成 ア 海外語学研修生の派遣や受け入れ等国際交流を促進する。 イ 海外修学旅行等で異文化理解の機会を確保する。	ア・外国語指導員(NET)や関係大学、関係機関の協力を得て生徒が国際交流を体験する機会をつくる。 イ・オーストラリアや台湾の高校との学校生活交流、留学生の受け入れ、また海外修学旅行等を通して異文化理解の事前・事後学習と現地高校生との交流などにより国際感覚の育成を図る。	ア・国際交流プログラムに参加した生徒の満足度 85%以上。 (令和元年度 87.0%) イ・学校教育自己診断における異文化理解の取組みへの満足度 80%以上。 (令和元年度 84.6%)	

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
3. 豊かな人間力を持った生徒の育成	1) 体験学習の充実 ア 保育園実習と老人ホーム実習をより充実させる。	ア・保育園及び老人ホーム実習の事前事後指導を充実させ、福祉に対する意識をより高めるための学習機会とする。	ア・生徒向け学校教育自己診断結果における福祉ボランティア等に関する肯定率80%以上。 (令和元年度84.6%)	
	イ 地域と連携した体験活動の充実を図る。	イ・地域主催の行事等への積極的な参加、ボランティア活動、近隣中学校との部活動交流を拡充する。	イ・生徒向け学校教育自己診断結果における地域交流への肯定率80%以上。 (令和元年度81.1%)	
	2) 学校行事、部活動の振興 ア 学校行事の地域等への公開を促進させる。 イ 部活動の活性化を図る。	ア・学校行事への地域等関係団体の招待など地域や近隣施設との連携を深める。 イ・新入生の入部率向上を図るとともに、近隣の学校園や施設、団体との連携を深める。	ア・体育祭や文化祭、授業発表会等への来場者数1500人以上を維持。 (令和元年度2046人) イ・部活動加入率78%以上。 (令和元年度77%)	
	3) 規範意識の醸成 ア 全体指導から学年・学級指導、個別指導につながる段階的な指導を徹底し、生徒が自主的にルールやマナーを守ることができるようにする。 イ 生徒指導や安全教育等、あらゆる機会をとらえて規範意識の向上を図る。挨拶がしっかりとでき、時間を守れる生徒を育成する。	ア・生徒指導をより実効性の高いものとするため、生活時間の自己管理等生徒の実態に立脚した指導方針を示し、すべての教員が統一した指導を行う。 ・スマートフォン等の指導においては、保護者の協力のもとルールやマナーを遵守させる指導をさらに充実する。 ・外部講師を招き、保護者と生徒を対象とした情報モラル学習を実施する。 イ・交通安全指導週間や防災避難訓練、薬物活用防止教室等様々な機会を捉え、地域連携のもと規範意識の向上を図る。 ・登校時遅刻や授業遅刻の指導により、時間を守り、授業を大切にしている生徒を育てる。	ア・懲戒件数、10件以下。 (令和元年度11件) ・生徒を対象とした外部講師による情報モラル学習を早期に実施する。 イ・生徒向け学校教育自己診断結果における規範意識への肯定率90%以上の水準を維持。 (令和元年度93.1%)	
4) 人権意識の向上 ア すべての学校教育活動を通じて一人ひとりを大切にする人権教育を推進する。	ア・人権教育計画に基づき、教科や特別活動等学校教育活動全般を通じて人権教育を実施し、一人ひとりを大切にする教育を実践する。 ・身近にある人権課題を見逃すことなく、全教員が一貫性のある人権教育を推進する。 ・スクールカウンセラーや専門機関等と連携して、教育相談をさらに充実させ、一人ひとりの成長を支援する。教員が教育相談のスキルを身に付けるよう研修を充実させる。	ア・生徒向け学校教育自己診断結果における人権教育への肯定率83%以上を維持。 (令和元年度84.4%)		
4. 信頼される学校づくり(教員力と情報発信力の向上)	1) 次世代を支える教員の育成とチームとしての教員力の向上	・校務検討委員会等を中心に、教職員の働き方改革の観点からも業務の円滑化・連携強化・平準化・効率化を図り、組織力を向上させる。 ・次世代を支える教員が中心となって企画運営する教員の自主研修の充実など、教員力向上を図る。	・生徒向け学校教育自己診断における、教員の協力体制に関する肯定率84%以上。 (令和元年度82.8%)	
	2) 開かれた学校をめざした、学校情報の積極的な発信	・メールマガジンやホームページを活用し、必要な学校情報をよりタイムリーに発信する。	・保護者向け学校教育自己診断結果における家庭への情報提供に関する肯定率85%以上。 (令和元年度82.7%)	
	3) 中学生やその保護者に対する、芥川高校の魅力発信	・学校新聞「芥川」を地域と学校をつなぐツールと捉え有効に活用するとともに、PV作成や写真展示等による生徒の輝く姿を前面に出したコンテンツを用意し広報活動をより一層充実させる。	・オープンスクールおよび学校説明会への参加者1000人超。 (令和元年度894人)	